

No. 1117

佐藤元首相死去

脳内出血のため慈恵医大病院に入院していた佐藤栄作元首相は、6月3日午前零時55分死去しました。享年74才でした。歴代内閣の最長不倒記録を作った佐藤政治は、高度成長経済に支えられ、最も安定した政権を築きあげました。

昭和39年11月9日、池田首相の裁断で後継首班候補に指名された佐藤さん、池田路線を踏襲してスタートしました。
その就任第一声

「国民生活を苦しめないように、また同時に、経済の大発展ができるように、さらにより良き社会をつくる、そこにひとつのビジョンがあるのではないか、それを私は強調したいと思う」

昭和41年10月20日、荒船運輸大臣、上林山防衛庁長官などあいつぐ閣僚の職権乱用で批判の矢面にたたされた佐藤さん、衆議院予算委員会での答弁

「私は一大決心をもって、積年の病へいを根絶するため、積極的かつ具体的措置をこうじて行く決意であります」

昭和46年8月6日、はじめて広島原爆記念式典に出席した佐藤さん、式典の静かな祈りの場を混乱におとし入れた被爆者青年同盟の若者達に顔をこわばらせながらあいさつ

「私は今後とも恒久平和のため努力すると共に、今なお原爆の傷跡に苦しむ被爆者の方々のために福祉の増進をはかる所存であります」

昭和46年10月支持率23%と史上最低を記録した佐藤政権。衆議院予算委員会でのりくらしと質問をかわす佐藤さん

—政府は核ぬき本土なみが実現するといわれていますが、その費用は正確にいくらですか

「エー、正確に申しあげるわけにただいまいかない」

—国会の本会議では七千万ドルということばを総理は何回もおだしになったですよ、それは全く根拠がないんですネ

「根拠がないことはございません」

—撤去費用を出すということは沖縄に核があるということ、これだけはハッキリしていますネ

「まア、現在核があるとかないとか、私も申しあげるような立場にはございません」

昭和47年5月15日、佐藤総理は懸案の沖縄返還を実現、沖縄復帰に政治生命をかけていただけに喜びもひとしお。

「沖縄は本日祖国に復帰いたしました。私はまずこのことを、過ぐる大戦において尊い犠牲となられた幾百万の霊に謹んでご報告いたしたいと思えます」

昭和47年6月17日沖縄返還を置きやげに引退を声明、その記者会見での席上

「テレビカメラどこかネ、前へ出て下さい。私は国民と直接話しをしたい、新聞記者の諸君とは話さないことにしている。新聞の文字になると違うからネ、偏向的新聞は大きらいだ」

こうして7年8ヶ月におよぶ政権の舞台から去った佐藤さんは、ついに帰らぬ人となったのです。